「Die Brücke 架け橋」第732号 令和５年10月１日発行（隔月刊）公益財団法人日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌

2023 10

表紙の言葉

2023年の今年は、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの来日から200年になります。今年の5月に長崎のシーボルト記念館を訪れたとき、彼の生まれ故郷であるヴュルツブルクにもミュージアムがあることを知りました。中央駅から市電に乗って20分ほどの、少し郊外の歴史ある公園の中にあります。黄色の素敵な建物に入ると、受付にはたくさんの日本からの民芸品があり、初めて訪れた人には彼のことが書かれた本をプレゼントしてくれます。彼の医学や植物学の偉業が紹介されているだけでなく、日独の交流がみられ、とても感激しました。入ってすぐの資料室にはたくさんの折り鶴が舞い、２階に上がると日本人女性芸術家による特別展も開催されていました。彼の愛した愛娘イネさんの胸像にも会うことができ、長居してしまいました。長崎の記念館に行った時も大雨にあたりましたが、今回もミュージアムに着くや雨。2つの博物館が本当に兄弟のよう。またいつか訪れたいです。

河原 美奈子（日独協会会員）

写真右上から時計回りに、①ヴュルツブルクのシーボルト博物館　②博物館のある公園　③展示　④資料室に飾られた折り鶴　⑤バスの停留所も「シーボルト博物館」⑥長崎のシーボルト記念館

Zum Titelbild

Dieses Jahr, 2023, jährt sich zum 200. Mal die Ankunft von Philipp Franz von Siebold in Japan. Als ich im Mai dieses Jahres das Siebold-Gedenkmuseum in Nagasaki besuchte, erfuhr ich, dass es auch in seinem Geburtsort Würzburg ein Museum gibt. Es befindet sich in einem historischen Park in einem etwas vorstädtischen Gebiet, eine 20-minütige Straßenbahnfahrt vom Hauptbahnhof entfernt. Wenn man das hübsche gelbe Gebäude betritt, findet man im Empfangsbereich eine Menge Volkskunst aus Japan, und wer zum ersten Mal kommt, erhält ein Buch über ihn. Ich war sehr davon beeindruckt, dass nicht nur seine Leistungen in Medizin und Botanik zu sehen sind, sondern auch der Austausch zwischen Deutschland und Japan. Im Bücherzimmer nahe dem Eingang lassen sich viele Origami-Kraniche bewundern und im ersten Stock gibt es eine Sonderausstellung einer japanischen Künstlerin. Eine Büste seiner geliebten Tochter Ine konnte ich auch sehen und bin lange geblieben. Als ich zum Museum in Nagasaki ging regnete es auch heftig, dieses Mal begann es zu regnen als ich das Museum erreichte. Die beiden Museen in Nagasaki und Würzburg sind wirklich wie Brüder. Irgendwann möchte ich sie nochmal besuchen.

Minako Kawahara (Mitglied der JDG)

目　次　　ページ／Seite　　INHALT

巻頭言 恵谷 英雄	1	**Vorwort** Hideo Etani
７、８月の協会活動報告	2	**JDG-Aktivitäten im Juli und August**
シリーズ：ドイツの鉄道「鉄道を通じて振り返るイリス商会の功績」その１ 久保 健	5	**Serie: Die deutschen Bahnen und Züge „Die Leistungen der C. ILLIES & CO. HANDELSGESELLSCHAFT im Bereich der Eisenbahnen“, Teil 1.** Ken Kubo
レポート：友好の桜の植樹祭 塚本 回子	6	**Bericht: Zeremonie zum Pflanzen der „Freundschaftskirschblüten“** Kaiko Tsukamoto
私とドイツ：ベルリンの壁崩壊に遭遇したあの年 1989 年 米谷 達哉	7	**Deutschland und ich: Eine Augenzeuge der Wendezeit 1989** Tatsuya Yonetani
ベルリナー・ルフト：七夕 ― ベルリンの空の下で楽しむ日本の星のお祭り キルステン・ホーアイゼル	8	**Berliner Luft: Tanabata - Das japanische Sternenfest unter dem Himmel Berlins** Kirsten Hoheisel
文化の玉手箱：映画紹介『エリザベート 1878』―コルセットからの解放 関根 裕子	9	**Kulturkiste: Filmvorstellung „Corsage“** Yuko Sekine
書籍紹介 森 宏之		**Buchvorstellung** Hiroyuki Mori
ドイツの小学校の必需品：万年筆 クッケルト 瑞穂	10	**Besonderes deutsches Schulmaterial : Der Füller** Mizuho Kökert
日独協会への寄付金報告		**Bericht über Spenden an die JDG**
ドイツ経済の動き 第 83 回 伊﨑 捷治	11	**Tendenz der deutschen Wirtschaft (83)** Shoji Isaki
新研修生ダヴィット・マイヤーさんインタビュー 菊池 菜穂子	12	**Interview mit dem neuen Praktikanten Herrn David Meier** Nahoko Kikuchi
お知らせ	13	**Mitteilungen**

欧州中銀の苦悩

恵谷 英雄（日独協会副会長）

今年は欧州中央銀行（ECB）設立後25周年に当たる。1998年7月1日の設立記念パーティー出席の数日後に、最後のドイツ勤務である日銀フランクフルト事務所長としての任務を終えて帰国したことは今でも昨日のことのように思い出される。

中央銀行（以下、中銀）の合併という史上初の試みが行われたその現場を見ることが出来たことはセントラルバンカー（中央銀行員）として本当に至福の時だったと言っても過言ではない。例えば、日銀が韓国や中国の中銀と一緒になり同じ通貨を共有するなどということは読者にも想定しがたいことであろう。そうしたことが欧州で行われたわけである。

それまでの欧州の金融政策は建前としては各国中銀が自律的に金融政策を決定しているということとなってはいたが、実態としてはドイツ中銀であるブンデスバンク（BBK）が欧州の金融政策を決定しその他の中銀はその決定に従わざるを得なかった。具体的にはBBKが利上げ等の政策決定を行うとその翌日等にフランス中銀もそれに追随していた。仮に追随しないとフランスフランが対ドイツマルクで売り浴びせられるという、フランス中銀にとり面倒な事態に追い込まれかねなかったからである。こうした中央銀行の自律性が失われている状況にフランス政府はかねてより強い懸念を抱き、「共通の通貨ユーロの導入によりそうした事態を打開したい」との思いを強く持っていた。

ブンデスバンクが欧州内でこうした実権を握ったのは、ドイツは第1次世界大戦中戦費調達のために国債を中銀であるライヒスバンクが引き受けざるを得なかったことから、戦後に物価が1兆倍にもなるハイパーインフレに見舞われた恐ろしい経験が背景にある。戦後新たに設立されたBBKは「2度とそうした悲劇は起こさない」として欧州のみならず世界でも、最もインフレに対して厳格な中銀として戦後その名声を確立していったわけである。

ただ、小生がドイツに赴任した96年半ばにはすでにECBの前身にあたる欧州通貨機構（EMI）が通貨統合の準備を開始していたが、その時点においても日銀内部ですら「通貨統合を実現できるとはとても思えない」との意見が支配的であった。それは、経済学者マンデルによる最適通貨圏の考えに基づくものであった。最適な通貨圏実現の条件として、①労働の移動の自由、②貿易の開放度が似ていること、③参加国の景気循環が似ていること、④財政移転の実施、の4点が挙げられたが、当時のユーロ参加候補国では、①、②は概ね満たされてはいたが、③、④に疑義があったからである。

それでも欧州の中銀の精鋭を集めたEMIでの精力的な検討を経てユーロ導入が実現に至り、当初こそ上述の疑念もありユーロ相場は対ドル、円で低位にとどまっていたが、特にインフレ率が域内全体として低位安定を維持したことから、徐々に外貨準備対象としても重要な地位を確立することとなり、それに伴い安定度を増していった。

そうした中で、今回のコロナ禍及びウクライナ戦争により設立後初めてインフレ率が大きく上昇し試練に立たされている。通貨が同じということは基準となる金利も域内は同じである。日本国内でも関東の景気が悪いからと言ってここだけ金利を低くすることが出来ないのと同じように、ユーロ圏内では同一の金利が適用される。因みに23年のEUによる域内経済見通しを見ると、インフレ率は、オランダ、フランスなどでは4％前後の比較的落ち着いた状況であるのに対して、スロヴァキアは13.9％と高止まっている。一方成長率見通しもばらつきがみられている。しかしながら金利は1つだし、だからと言って景気の悪いところに財政出動する余地もほとんどない。もっとも、これまでのところユーロが売り浴びせられているわけではない。24年度の見通しを見ると、スロヴァキアのインフレ率も3％台まで低下するほか成長率も平均1.4％を中心に収斂する見込みにあることなどによるものである。

このようにECBは域内経済のばらつきかつ設立以降再三明らかになってきた各国中銀の立場の違い（ドイツ、オランダ等北方諸国の低インフレ・高金利優先のタカ派vsイタリア等南方諸国の景気・低金利優先のハト派）の中でラガルド総裁の下で難しい運営を余儀なくされているが、EUの見通しに沿ったユーロ参加国経済が収斂に向かい混乱がなく推移するのか、はたまた収斂に向かわずに各国中銀間の不協和音をもたらし再びユーロの危機を招くこととなるのか依然として予断を許さない。

ドイツ語講習会
2023年度上半期コース
火～日曜日
Deutschkurse in der JDG
April 2023 - September 2023
jeden Di.-So.

第6回 Hör mal zu!
第二次世界大戦と在日ドイツ人
6/28(土)　18:00 ～ 20:00
Hör mal zu! (6)
Der Zweite Weltkrieg und die Deutschen in Japan
Datum: Mi., 28. 6. 23, 18.00-20.00

第6回目となる「Hör mal zu ！」がオンライン形式にて開催されました。今回のテーマは「第2次世界大戦と在日ドイツ人」、講師は横浜日独協会常務理事の大堀聰氏で約40名の方にご参加いただきました。大堀氏の長年の調査、研究により、従来スポットライトを浴びることの少なかった戦時中の在日ドイツ人の状況が詳らかにされました。

同氏によると、1944年時点での在日ドイツ人は2,802人、彼らの殆どは本国との行き来を遮断され、日本で暮らすことを余儀なくされた人達とのこと。

属性としてはビジネスマン以外にカトリックの宣教師、官公吏が多かったようです。終戦時は箱根（770人）、神戸（730人）、長野（600人）、河口湖（240人）等に集団疎開しており、各地でその足跡を残しました。また1941年、蘭印（インドネシア）で抑留されていたドイツ人婦女子600人を日本が受け入れたことが当時のニュース映像とともに紹介され、一方、戦時中ドイツ当局により反ナチス容疑でドイツに帰還を命ぜられたり、ドイツ国籍を剥奪されたユダヤ人が100名以上もおり、中にはN響の基礎を築いたローゼンストック氏が含まれていた等、あまり知られていない事実も明かされ、参加者からは大堀氏の丹念で根気強い調査研究に賛辞が寄せられました。(森 宏之)

ドイツ時事問題研究会 第91回
7/15(土)　15:00 ～ 17:00
Studiengruppe "Deutschland aktuell" (91)
Datum: Sa., 15. 7. 23, 15.00-17.00

当月のトピックスは、①北海の洋上発電設置入札（合計7,000MW、原発約5基相当）において補助金ゼロで応札した3社に対する再入札が行われ、3社が合計126億ユーロ（設置権取得料）を提示して落札。②連邦議会が安楽死法案2案を審議、双方とも否決。ドイツは引き続き安楽死に関する法制度なし。③2022年のカトリック教会からの脱退者が522,821人でこれまでの最多を記録。元ローマ法王ベネディクト16世に対する疑いも要因か。④2022年の移民流入数が267万人でこれまでの最多。流出は120万人で、純流入は約146万人、うち約100万人はウクライナから。その他、独中定期協議の開催、専門職移民法の成立、ライプツィヒ大学による東部ドイツ人意識調査など多数。「今月のテーマ」は、「ドイツと日本の国際競争力」について、スイスの国際経営開発研究所の調査をもとに新井氏が報告した。ヨーロッパやアジアの小国が上位を占め、ドイツは22位、日本は35位に位置付けられた要因などについて議論を行った。(伊﨑 捷治)

シュプラッハトレッフ（日独言語交換会）
7/15(土)　19:00 ～ 20:40
Sprachtreff
Datum: Sa., 15. 7. 23, 19.00-20.40

今回も総勢60人と盛会でした。ドイツ語圏からの参加者は特に初級レベルの方が多かったです。参加者には事前にその会のテーマと便利な表現集をメールでお渡ししています。最初に全員に簡単な説明があった後、小さなグループに分かれて言語交換が始まりました。まずは一人一人じっくりと自己紹介をしてもらい、その後、今回のテーマ「夏休み」について話しました。夏休みの予定や、どこに行くか、といった質問を参加者同士してもらいました。8月頭に日本に来るというドイツ人の方には、日本人参加者が「今年は本当に暑いから気を付けて！」といったアドバイスがあったり、"Balkonien" なんて言葉も教わりました。これは、夏の旅先として有名なイタリア（Italien）やスペイン（Spanien）にかけて、バルコニーを「Balkonien」という国のようにもじって言う表現で、「どこにも行かずに家で休暇を過ごす」という時に使われるそうです。

人数が多くなった分、グループの人数調整や、ZOOM内でのグループ分けが複雑になり、時間がかかるなどの課題もありますが、改善しつつ続けていきたいと思っています。

独逸塾
7/17(月)　19:00 ～ 21:00
Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland
Datum: Mo., 17. 7. 23, 19.00-21.00
参加者数24名

1．テキストはRedaktions Netzwerk Deutschland 2023年4月19日およびDie Welt 2023年4月19日のワルシャワゲットー蜂起80周年記念式典の記事

1）独大統領がワルシャワのこの式典で演説するのは初めてであった。
2）独シュタインマイヤー大統領はナチスドイツによる犯罪について許しを求めると述べ、ロシアのウクライナ侵攻について非難した。
3）スピーチで、「人々は歴史から、自由と独立のため闘わなければならないこと、民主主義を自ら守ることの大切さを知っている」と述べた。
4）1943年のワルシャワゲットー蜂起はドイツでは1944年のワルシャワ蜂起と混同されているので今回の大統領の演説は意味がある。
5）式典は想像を絶する苦しみや死の歴史を回顧するだけでなく、反抗したユダヤ人の勇気をたたえるものでもあった。
6）独大統領はポーランドではあまり評判がよくなかった。理由は元親友にロシアのロビイストであるシュレーダー氏がいること、また外相時代にノルトストリームパイプラインを推進しドイツおよびヨーロッパのガスのロシアへの依存度を高めたことである。しかしポーランドの大統領がベルリン訪問時に尽力し独大統領のウクライナ訪問を可能にした。
7）Die Weltの記者の見方：大統領の演説を冷ややかな目で見ており、彼は過去の歴史から教訓を得たと述べているがドイツの対ロシア政策の失敗や彼の個人的な失敗に触れていない、としている。

ドイツ語の解釈で色々議論が交わされた。Eine Leerstelle ließ er bei der Rolle seiner eigenen Person. 等

（森永 成一郎）

セミナー「ドイツ語とキャリア形成」2

7/22(月)　17:00 ～ 19:00

Seminar: Deutsche Sprache und Karriereentwicklung

Datum: Sa., 22.7. 23, 17.00-19.00

参加者45名。会員よりもはるかに多くの一般の方が参加されました。講師の樋上さんは、社会人になって働きながらドイツ語学習を再開し、その後、ドイツ語圏で長くキャリアを積まれました。最初からドイツで働こうと考えていたわけではなく、楽しみながら学んでいく中で、少しずつドイツでの就職も考えるようになったそうです。

セミナーでは、ドイツで就職する際のいくつかのルートや、必要な語学力、いくつかの求人情報サイトの紹介や、実際に求人情報を見ながら、そこから読み取れることなど具体的にお話しいただきました。ドイツ専門の人材紹介会社もあり、とにかくまずは登録だけでもすればドイツ就職活動に踏み出したことになります。

また、樋上さんはドイツ語力をあげるのに、NHKのラジオ講座を活用したり、日独協会のシュタムティッシュ（日独交流会）でドイツ語を話す機会を作ったり、ドイツにある独日協会に直接連絡して文通相手を探すなど、積極的に楽しんでドイツ語力を磨いたそうです。また、日独協会のイベントで知り合ったドイツ人を東京で案内したり、ドイツではその方のおうちに泊まったりなど、協会を活用して人脈を大いに広げたそうで、ドイツで最初の仕事も、協会に当時置いていた「ドイツニュースダイジェスト」の求人広告で見つけたそうです。（現在、協会には「ドイツニュースダイジェスト」を置いていませんが、オンラインで読むことができます）

今回のセミナーで、ドイツ語を使った仕事やドイツでの就職を考えている方は、それに向かってまずは一歩踏み出し行動しよう、と背中を押されたように感じたのではないでしょうか？（菊池菜穂子）

会員懇談会サロン「エストニア大学紀行ータルトゥ大学のドイツ人医師と化学者たちー」

7/24(月)　18:00 ～ 19:30

日独協会事務所内セミナールーム

Mitgliederstammtisch

„Eine Reisebericht der Universität Estland“

Datum: Mo., 24. 7. 23, 18.00-19.30

Ort: Seminarraum der JDG

17世紀スウェーデンによって創設され、19世紀にはロシア帝国という国家の中で、ドイツ語で授業が行われていた、今はエストニア共和国にあるタルトゥ大学。この北の大地に立ち、或いは「辺境」にあるとも言える大学のユニークな現代的意義を講師の赤羽良一氏は大学史の中で大変興味深いとされている。

学問や文化は、それに関わった学者・研究者・学生の生活や活動を「個別」に探ることによって、その歴史も明らかにできる、という立場から、講師は、精神医学者、解剖学者、生理学者、化学者、そして、このタルトゥの地で大学における学問として誕生したとされる薬理学の分野で活躍した人々の経歴や仕事内容を取り上げられた。

特に参加者の興味を引いたのは、日本人に馴染みのある、19世紀後半に医学部教授を務めた精神科医エミール・クレペリンのタルトゥ（ドルパト）およびそれ以後の地（ハイデルベルクやミュンヘン）で

タルトゥ大学本館

の足跡を辿りつつ、当時のドルパト大学の医学者、化学者の経歴、彼らのドイツ本国あるいはロシアとの関係に触れながら、タルトゥ大学へのドイツの大学の影響、タルトゥ大学の大学史的意義について考察された所にあった。（佐藤 勝彦）

ドイツ語夏期講習会　第71回
7/22 ～ 8/2
Sommerintensivkurs Deutsch（71）
Datum: Sa., 22. 7. 2023 – Sa., 12. 7. 2023

毎年夏の恒例行事となっているドイツ語夏期講習会を今年も開催しました。全12クラスをオンラインで開催し、関東以外の地域や、ドイツ本国からもご参加いただきました。夏期講習会に関しては講師陣も、短期間で皆さんが効率よく学べるよう事前準備やテキスト作成を工夫しています。

講座終了後のアンケートでは、ほとんどの参加者に「（内容に）満足」という評価をいただき、先生の教え方や、内容についてポジティブな感想が寄せられました。「普段あやふやにしていたところがクリアになった」や「自分の勘違いに気づけた」「ドイツ語で話す前に、まずは考えをシンプルな日本語にしてみる、という当たり前のことに気づけた」のように、新たな学びと気づきが多かったようです。

※会場が書かれていないものはオンライン開催

レポート

ドイツ語圏文化セミナー155：
「ドイツ社会の矛盾が生み出したAfDとは？ - データと報道で見る10年の歴史と現状 -」全2回
8/4、11㈮　19：00 ～ 21：00
Kulturseminar 155：Was ist die AfD, ein Produkt der Widersprüche der deutschen Gesellschaft? -Ein Jahrzehnt Geschichte und der aktuelle Stand aus Sicht der Daten und der Presse-
Datum: Fr.,4. 8. 23 / 11. 8. 23, 19.00-21.00

講師：髙島亜紗子氏（公財）日本国際問題研究所 研究員
　　小野竜史氏　慶應義塾大学 非常勤講師、当協会ドイツ語講師

AfD（ドイツのための選択肢）という政党名は、日本ではあまり知られているとはいえず、多少ドイツ政治に関心ある方でも「あれは極右のいかがわしい政党」というのが大方の理解ではないでしょうか。今年結党10年目を迎えるそのAfDが今、ドイツ全土で高い支持を集めており、今年6～7月には旧東独地域の地方自治体でAfD首長が複数誕生しているという。一体ドイツで何が起こっているのか？ AfDは今後ますますその勢力を伸ばすのか？こういった疑問に対し、2人の若手研究者が2回に分けて計4時間、オンラインで丁寧に解説して下さいました。参加者は延べ60人以上となり高い関心が伺われました。

8月4日の第1部では、AfDの躍進の背景として①東西ドイツ格差、②ヨーロッパ（西側）統合、③CDUの「リベラル」化、④移民、難民受入れ（への反発）に注目しつつ、統一ドイツの歩みとともに同党の結党からの流れを詳説。当初ユーロ批判を掲げる経済学者等が立ち上げた政党でしたが、幹部党員の過激で極右的な言動が、メルケル政権の移民、難民政策に反発する旧東独地域の市民中心に支持を得て躍進してきたこと、2020年のコロナ禍以降は難民の流入減少もあり、いったん支持率を落としたことが説明されました。

8月11日の第2部では、2022年以降の動向と今後の見通しについて話を伺いました。AfDが極右政党なのか、単にCDUの右に位置する右派政党なのかという議論については、ドイツ基本法の理念や憲法擁護庁の基準などから、少なくとも連邦といくつかの州支部の主要政治家は「極右」と呼びうるのではないかと。但しロシアのウクライナ侵攻以降、とりわけエネルギー価格が高騰する中、戦争反対、ロシアとの和平交渉を主張する同党への支持が急速に伸びており、同党がより穏健化路線に舵を切ればCDU等との連立の可能性も出てきているとのこと。

両日とも解説の後、活発な質問がなされ、講師より丁寧に回答頂きました。

ドイツ社会の矛盾を突く形で勢力を拡大してきたAfDの動向には今後ますます注視していく必要があることを強く認識する機会となりました。

森 宏之（日独協会 運営委員）

シリーズ
ドイツの鉄道

鉄道を通じて振り返るイリス商会の功績　その1

久保　健（鉄道史学会会員　日独協会会員）

日本の鉄道は、ドイツ人技術者の招聘や留学を通じての技術導入を通じ、ドイツからの影響を受けつつ進化してきました。この交流の架け橋となったのは、ハンブルク出身の商人カール・イリス(Carl Illies)が、クニフラー(Kniffler)商会を引き継ぎ、1880（明治13）年に横浜で開業したイリス商会です。イリス商会は、日本の鉄道創成期からドイツの車両や設備の輸入に携わっており、日本の鉄道が必要としていた製品を、国際情勢に翻弄されつつも提供してきたあゆみは、日独交流史の縮図と言えそうです。今回から鉄道におけるイリス商会の功績を、現在も目にすることのできる車両や設備のご紹介も交えつつ、4回にわたり振り返りたく思います。

■鉄道の自立運営を目指して

1872（明治5）年新橋-横浜間開業以来、日本の鉄道はイギリスから資材を輸入しており、日本人技術者の育成が進んだ1880年代以降も、調達先の選定や品質検査はイギリス人が行っていました。日本としては鉄道の自立運営、さらには不平等条約改正に向け、イギリスの影響力低下が目指される中、訪欧中の工部省書記官から、ドイツがイギリスより質が高く安価な鋼製レールを輸出しているとの報告を受けます。ドイツでは、1862年にクルップ(Krupp)社が耐久度に優れた製鋼法であるベッセマー法の独占使用権を獲得し、王立バイエルン邦有鉄道にレールを50本納入したのを皮切りに、レールの生産が本格化します。1880年代にはドイツの線路敷設が一段落したため、海外へと販路を広げていたこともあり、ドイツ公使青木周蔵とドイツ政府の交渉は順調に進み、1886（明治19）年に日本鉄道株式会社の宇都宮-白河間（現在の東北本線）建設を請け負った工部省鉄道局によって、初めてのドイツ製鉄道資材となるレールが輸入されます。

1885(明治18)年7月8日の工部省記録によると、日本鉄道は「鉄道局御指揮によりイリス商会との間でドイツ製の鉄道資材購入を決定」したとあります。初めてのドイツ製鉄道資材だったためか、イリス商会へは5分の2のレールを名声の高いクルップ社の製品にすることを求めるなど、強気な態度も垣間見え、イリス商会担当者の苦労がしのばれます。こうして導入されたドイツ製レールは満足のいくものだったようで、ドイツからのレール輸入は輸入総額に対し、1886年度33%、1887年度48%と一定の割合を占めるようになります。また1889（明治22）年に九州初の鉄道を建設するにあたって、プロイセンの鉄道技術者ヘルマン・ルムシュッテル(Hermann Rumschöttel)が招聘され、イリス商会は鉄道資材の調達を行っています。なおルムシュッテルについては2019年4月のDie Brückeに掲載された当連載にありますので、こちらもご参照いただけますと幸いです。

水道橋駅のホーム柱に使われている古レール

■水道橋駅に残るドイツ製レール

この時輸入されたドイツ製のレールは柱などに転用されており、中でもJR水道橋駅1番ホームの御茶ノ水寄りの屋根の柱に使われている古レールは、「UNION D 1885 I.R.J.」の刻印が鮮やかに見て取れます。UNIONはウニオン社（Union AG für Bergbau, Eisen und Stahl Industrie）製、Dはウニオン社のあるドルトムント(Dortmund)、1885は1885年製、I.R.J は日本鉄道から工事を請負、発注者となったImperial Railway of Japan(日本の帝国鉄道、工部省鉄道局のこと)を意味しています。日本鉄道がこだわったクルップ社製でないのは残念ですが、見やすい場所で使用され、文字のつぶれも無く、状態も良いようです。イリス商会によって、ドルトムントからやってきた貴重な生き証人を見上げ、水道橋駅で150年の歴史の一端を感じられてはいかがでしょうか。

鮮やかに残るウニオン社製古レールの刻印

レポート

友好の桜の植樹祭

塚本 回子（Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会 代表）

6月3日、日本各地からの参加者33名と八王子市長等一行5人を乗せたバスはベルリンから一時間半ほどの郊外にある美しいヴリーツェン市（Wriezen）へ向かっていた。「桜の植樹祭と銘板除幕式」に参列するためだ。近づくと何とパトカーが先導して市内へ。市庁舎前でイルム市長等の歓迎をうける。市庁舎からDr. 肥沼の墓地までの道は、八王子市出身でヴリーツェンの名誉市民となった肥沼信次医師にちなみ、2021年に「Dr. 肥沼通り（Dr. Koyenuma Str.）と名付けられた。第二次世界大戦後のヴリーツェンで多くの人々を感染症から救い、自らも感染し37歳で亡くなった肥沼信次医師は亡くなる前に「日本の桜をみんなに見せたい」と言った。それを知った私たちは昨年「結ぶ桜のプロジェクト」という募金活動をして、ヴリーツェン市に桜の苗木を寄贈したのである。墓地に入る前の広場にはすでに23本の八重桜としだれ桜等が植えられてあった。大きいものは5～6メートルある。その広場が式典会場。両市長の挨拶に続き私の挨拶。そして銘板の除幕。会場には沢山の市民や学生の方々がみえていた。素晴らしい青空、爽やかな風と太陽を浴びての式典だった。

友好の桜銘板除幕式
（中央右が筆者、中央左八王子市長、右端ヴリーツェン市長）

「桜の花はきれいに咲いて散ってしまうけれど、その一瞬一瞬を精一杯生きるという日本人の心に通じるものがあります。Dr. 肥沼の生き方は桜の花が象徴してくれていると思います。」という日本大使館の北浦公使のご挨拶が心にしみた。

この日はヴリーツェン市の「堤防祭り（Deichtag）」というお祭りが4年ぶりに開催され、町の広場は賑わっていて、野外ステージでの八王子観光ＰＲ特使冨永裕輔氏のコンサートを沢山の市民の方々が待ち構えていた。冨永氏はDr. 肥沼ソング「Life is Waltz」をドイツ語で熱唱し大喝采をあびた。最後に八王子市のお祭りの定番「太陽おどり」を冨永氏の歌に合わせてドイツ人と幾重もの輪になって楽しく踊った。みんな笑顔だった。これぞ平和な世界の姿と感動で胸がいっぱいになった。

堤防祭りで「太陽おどり」を踊る

ツアー最終日には、今回のツアーの企画、通訳をしていただいたシュミット（Katrin-Susanne Schmidt）さんのおかげで、ベルリン独日協会のホールで冨永裕輔氏のコンサートも開催でき、ベルリン独日協会をはじめとする方々との交流もあり有意義な夕べとなった。

いつの日か満開の桜の下で、日独の皆さんが笑顔で集うことを、そして国境なき心で世界が一つになりますようにと願いつつ旅を終えた。

日独協会の会報誌には、肥沼信次医師のことを何度も掲載していただき、会員の皆様には募金にもご協力いただいたことに心から感謝いたします。

独検
Diplom Deutsch in Japan
ドイツ語技能検定試験
2023冬
1級 準1級 2級 3級 4級 5級
試験日 2023年12月3日（日）
1級準1級二次試験▶2024年1月28日（日）
試験地（予定） 札幌 仙台 新潟 金沢 前橋 松本 東京（含横浜） 三島 名古屋 西宮 松江 広島 松山 福岡 長崎 大分 熊本 鹿児島 沖縄
出願期間 郵送▶9月1日～10月20日（金）消印有効
インターネット▶9月1日～10月19日（木）
独検
詳細は公式ウェブサイトを御覧ください
https://www.dokken.or.jp
公益財団法人 ドイツ語学文学振興会 独検事務局
〒112-0012 東京都文京区大塚5-11-7-101 電話(03)5981-9715
〈後援〉ドイツ大使館 オーストリア大使館 スイス大使館 ドイツ学術交流会 ゲーテ・インスティトゥート
〈協賛〉公益財団法人 日独協会 ドイツ語教科書協会
＊受験要項・願書はウェブサイトから
ダウンロードできます
＊インターネットでも出願できます
（書店・大学生協でのお取り扱いはありません）

シリーズ 私とドイツ File28

「私とドイツ」は日独協会の会員、関係者にご自身とドイツ・日独協会との関りについて語っていただくシリーズです。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

ベルリンの壁崩壊に遭遇したあの年 1989 年

米谷 達哉（日独協会会員）

ベルリンの壁の前で（2001 年）

ドイツ人と話す時、「あなたは、いつ頃、ドイツに滞在していたのですか」と聞かれて、「それは、Wendezeit ですよ」と答え、それを、しばしば、会話を盛り上げるきっかけとしてきた。ここでの Wendezeit とは、ベルリンの壁崩壊とそれに伴う社会政治的な意味での転換期のことを指すが、私にとっては、その時期にドイツにいたということは、その後の物事の見方などに大きく影響したといっても過言ではない。

私は日本銀行に入行して５年目の秋、1988 年秋からの半年間のフライブルクのゲーテ・インスティテュートの語学研修を経て、1989 年の４月からゲッティンゲン大学経済学部の Jarchow 教授のもとで Visiting Fellow として１年間留学する経験に恵まれた。これが Wendezeit に当たる年になるとは、日本を発つ時はもちろん、ゲッティンゲン大学に最初に到着した時点では夢にも思わなかった。

Wendezeit のきっかけの一つは、よく知られているように 1989 年５月に、ハンガリーがオーストリアとの国境線の鉄条網を撤去したことであるが、８月には汎ヨーロッパ・ピクニックと呼ばれる東ドイツ国民がハンガリーからオーストリア国境を越えて亡命を果たす事件が起こり、東ドイツ（DDR）はじめ、東欧諸国で政治変革を求める動きが活発化する。９月初めには、市民運動として有名になるライプツィヒの月曜デモが、西側メディア取材の中、大規模に行われている。

ちょうどその頃、私は夏休みの最後、数日間、DDR からチェコスロバキア、ハンガリーを回る旅の最中であったが、DDR では、明らかにピリピリした緊張感が旅行者にも感じられた。私は、西ベルリン経由で DDR 入りするに当って、当時最も一般的だった地下鉄フリードリッヒシュトラーセ駅の国境検問所を通じて東ベルリンに入ったのだが、普段はさほどでもないと聞いていた検問の厳しさは、大変なものだった。入国目的等色々聞かれた上、持ち物を洗いざらい調べられ、財布の縫い目にまで何か隠していないか調べるのには往生した。彼らが一番警戒していたのは、西側の新聞、雑誌等の情報が持ち込まれることだったようで、私は西側メディアの一員か何かと勘違いされたようだった。その時は偶々、東側に行くからと出かける前に、西ドイツの新聞はカバンの中から出しておいたので良かったのだが、そうでなければ、確実に検問所で暫くの間の留置は避けられなかったと思う。その後、DDR の中は、ベルリン、ワイマール、ドレースデン（訪問先の町、宿泊所は当局の旅行会社が全て指定、ライプツィヒは希望したが、デモのこともあってか許可されなかった）を訪ねたが、日常品などでも、東独マルクの支払いであると、ある決められた供給量以上は買えないのに対して、西独マルクでなら、ちょっと高級なものでも不自由なく手に入るとのことで、人目を憚りながら、宿代等を西独マルクでの支払いを求めてくる人を見ながら、社会主義経済の実態について改めて考えさせられた。

そして、いよいよ、Wendezeit を迎えることになる。DDR は、私と同じ誕生日の 10 月7日に建国 40 週年を迎えた後、11 月９日にシャボウフスキー政治局員が「ベルリンの壁を含めて、すべての国境通過点から出国が認められる」という政令が『遅滞なく』発効されると誤って発表したことをきっかけに、東独市民が検問所に殺到しベルリンの壁が崩壊したことは、報道等でよく知られているところである。

当時、私は９日の夕方、研究室でドイツ人の学生仲間と談笑していたが、それを聞いた殆どの反応は「信じられない」というものだった。私自身は半信半疑ながら、文学専攻で留学している日本人の友人と一緒に DDR と国境を接するゲッティンゲンの隣町ドゥーダーシュタット（Duderstadt）辺りまで目で確かめに行こうという話になった。夜になり、どれくらい待ったかわからないが、かなり経ってから、一台のトラバントがこちらに向かってくるのが見えた。それに対して、「今、歴史の瞬間を目撃しているのだ」と興奮して手を振ったのを覚えている。その翌日から週末にかけてトラバントの列は続き、11、12 日の週末のゲッティンゲンは東独市民で埋め尽くされることになる。そこで市民が夢中に買い求めていたのはチョコレートなど、ごくありふれた食料品であったのも興味深かった。

Wendezeit から 12 年後、私は、仕事（日銀フランクフルト事務所長）で再び、ドイツに滞在することになるが、その時も、そして今もドイツ統一に向けての人々の情熱が世代を跨ってどう継承されているのかは、私の最大の関心事の一つである。

ドイツの壁崩壊直後、ゲッティンゲンのマクドナルド前に東独から来たトラバントが停まっている

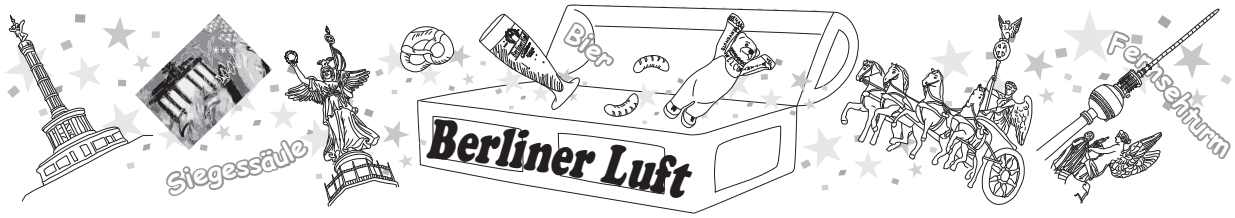
Tanabata - Das japanische Sternenfest unter dem Himmel Berlins

Kirsten Hoheisel (Vorstandsmitglied der DJG Berlin)

参加者の折り紙作品や短冊が吊るされた木

Japan hat viele schöne Bräuche und Feste. Ich persönlich finde, dass gerade das Sternenfest sehr gut für Kinder und Familien geeignet ist. Das liegt vor allem an der wunderschönen Geschichte der Prinzessin Orihime und ihrer großen Liebe Hikoboshi. Des Weiteren ist es die schöne Origami-Kunst. Im digitalen Zeitalter macht gerade das analoge Falten kleiner Kunstwerke Spaß. Im Japanisch-Deutschen Zentrum Berlin (JDZB) findet man den idealen Ort, um dieses Fest auch hierzulande zu feiern. Die hellen Arbeitsräume mit einem kleinen japanischen Garten im Innenhof sind perfekt geeignet. So fand am 3. Juli 2023 im Rahmen des Open Monday bereits zum zweiten Mal der von der DJG Berlin veranstaltete Tanabata Workshop in Kooperation mit dem JDZB statt. Der monatlich stattfindende Open Monday wurde vom JDZB ins Leben gerufen, um interessierten Besuchern in den späten Nachmittags- und Abendstunden ein offenes Haus mit wechselnden Veranstaltungen anzubieten. Die Fülle der Besucher zeigt, dass dieses Angebot gern von neugierigen Berlinerinnen und Berlinern angenommen wird.

So war auch dieses Mal der Workshopraum schnell gefüllt mit Kindern und Erwachsenen aus Deutschland und Japan. Nach Erklärungen zu den japanischen Wunschzetteln mit ihren verschiedenen Farben und Bedeutungen machten sich die Teilnehmer daran, ihre ganz persönlichen Wünsche aufzuschreiben. Da die Origami-Kunst für Ungeübte ein gewisses Maß an Geduld und Konzentration erfordert, beschränkte ich mich auf das gemeinsame Falten eines Goldfisches und eines Kranichs. Gemeinsam haben wir es geschafft. Nach neunzig Minuten hatte jeder Teilnehmer seinen Wunschzettel und sein Origami fertig. Zum Abschluss wurden die farbenfrohen Ergebnisse im Garten aufgehängt. Gemeinsam sangen wir ein japanisches Tanabata-Lied an diesem Sommerabend mit perfektem Wetter. Anders als im letzten Jahr hatten wir diesmal Glück. Denn am 7. Juli 2022 waren wir im Regen auf die Kasasagi-Vögel angewiesen. Ganz sicher werden unsere Wünsche damals trotzdem angekommen sein.



七夕 ― ベルリンの空の下で楽しむ日本の星のお祭り

キルステン・ホーアイゼル（ベルリン独日協会理事）

日本には美しい習わしや祭りが多くあります。私は、星のお祭りが子どもたちや家族にぴったりだと思っています。織姫と彦星の大恋愛についての素敵なお話があるからです。それに加えて折り紙をすることができます。デジタル時代に、自分たちの手で紙を折って小さな芸術品を作ることは楽しいです。ベルリン日独センター（JDZB）は、このお祭りをドイツでも楽しむことができる理想的な所で、中庭に小さな日本庭園がある明るいワークスペースはぴったりな場所なのです。そんなわけで、2023 年 7 月 3 日、オープンマンデーの一環として、すでに 2 回目となったベルリン独日協会主催の「七夕ワークショップ」がベルリン日独センターとの共催で行われました。毎月開催されている「オープンマンデー」はベルリン独日センターによって企画され、関心を持つ参加者達に建物を開放し、午後の遅い時間から夕方にかけて、様々な催物が行われます。訪れる人の多さが、好奇心旺盛なベルリンの人々にこの催物が好意的に受け入れられていることを物語っています。

七夕ワークショップ

今年もワークショップルームはすぐに日独の子どもや大人でいっぱいとなりました。色とりどりの短冊とその意味について説明をうけた後、参加者たちは自分の個人的な願いを書きました。経験がない人が折り紙をするときは、いくぶんかの忍耐と集中力が必要ですので、私は金魚と鶴をグループで作るだけにしておきました。私たちは一緒にそれらを完成させました。90 分後、参加者それぞれが自分の短冊と折り紙を完成させました。最後に色とりどりの作品を庭で吊るしました。このお祭りに最適の天気に恵まれた夏の夕べ、皆で一緒に日本の七夕の歌を歌いました。昨年とは違い、今年はラッキーでした。2022 年 7 月 7 日は、私たちは雨の中、カササギにお願いするしかなかったからです。（七夕には、雨天の時はカササギが織姫と彦星の橋渡しをする、という伝説があります。編集部注）。去年の私たちの願いが届いたに違いありません。

Die Kulturkiste
＝文化の玉手箱＝

映画紹介

エリザベート 1878

『エリザベート 1878』―コルセットからの解放

関根 裕子（早稲田大学他 非常勤講師）

オーストリア映画界の気鋭マリー・クロイツァー監督とヴィッキー・クリープスが組んだ本作の原題は、『CORSAGE（コルセット）』（2022 墺・独・ルクセンブルク・仏合作、ヴィッキー・クリープスはカンヌ映画祭で「ある視点」部門で最優秀演技賞を受賞）。コルセットは、近代ヨーロッパで女性がウエストから上の胴体を締め付け、細く見せるために着用した下着のこと。よく知られているように皇妃エリザベート（1837-1898）は、172cm, 50 キロのトップモデルのような体形を維持するために、居室に吊り輪を装備し、ハードな運動とダイエットをしていた。鍛えられた身体をさらに細く見せるため、コルセットで胴体を締め上げて、美しいドレスラインを作る。このような彼女の美しい容姿への努力は、皇帝フランツ・ヨーゼフの傍らに寄り添う高貴で美しい皇妃というハプスブルク帝国の象徴的存在として、世間の期待に応えるため、いわば社会的コルセットに自分を押し込める側面もあった。

しかし 40 歳を迎えたエリザベートは、「重い帝冠を載せて儀式で見世物にされる」ことに疲れ果て、容姿の衰えや周囲の心無い言葉に対して過剰なほど敏感になっていた。「平民なら 40 歳は平均寿命」と言う主治医の処方したヘロインに依存し始めた彼女は、自らのコルセットの箍を外し、替え玉作戦に出たり、あれほど大切にしていた長髪を自ら切ったりと反乱を起こす。これらの事象は必ずしも史実で確認できるものではない。もともとクロイツァー監督は、史実通りの話を作ろうとは意図していなかったし、これらのプロットはエリザベートが中年以降、扇子と日傘で顔を隠し、見せなくなった史実にヒントを得たものだという。

配給：トランスフォーマー、ミモザフィルムズ監督・脚本：マリー・クロイツァー
2022 年／オーストリア、ドイツ、ルクセンブルク、フランス／ドイツ語、フランス語、英語、ハンガリー語／ 114 分／カラー・モノクロ／ 2.39 : 1 ／ 5.1ch
原題：Corsage　字幕：松浦美奈
© 2022 FILM AG - SAMSA FILM - KOMPLIZEN FILM - KAZAK PRODUCTIONS - ORF FILM/FERNSEH-ABKOMMEN - ZDF/ARTE - ARTE FRANCE CINEMA

夫フランツ・ヨーゼフ、ルドルフ皇太子、末娘マリー・ヴァレリー、ルートヴィヒ II 世、イギリス人馬術家ミドルトン、そして女官たちとの関係の描かれ方も秀逸だ。

ロミー・シュナイダー主演の『シシィ』3 部作（1955、56、57）とはまるで違う。むしろミュージカル『エリザベート』（1992）（ミヒャエル・クンツェ台本　ジルベスター・リーヴァイ作曲）で描かれた束縛からの解放としての死(Tod)に憧れるエリザベートに近い。精神病院を頻繁に慰問し、苦しむ患者たちに自分を重ねるエリザベートの描かれ方も似ている。

コルセットとは対照的に、自分自身を解き放つ空間として、水が意味を持つ。バスタブ、プール、湖、そして海へ…。

※本来 Elisabeth のカナ表記は「エリーザベト」だが、本稿では映画の表記に従った。

Die Kulturkiste
＝文化の玉手箱＝

書籍紹介

「ドイツ進出企業の労働問題」池田良一 著

森 宏之（日独協会 運営委員）

最近当協会にはコロナ明けということもあり、ドイツ赴任や現地企業への就職に関する相談が増えている。協会としてもそれに対応したセミナーを開催し好評を博しているところであるが、今回はそうした相談者にうってつけの必読書を紹介する。池田良一氏著「ドイツ進出企業の労働問題」である。

著者は 29 年間大手会計事務所プライスウォーターハウスクーパース・デュッセルドルフ事務所に勤務、ドイツの税務・法務等に精通し、日系企業からの幾多の税務相談に応じてきた実績を持つ。傍らデュッセルドルフ日本商工会議所等にて日系企業の幹部・実務担当者向けセミナーを頻繁に開催、その分かりやすい解説には多くのファンがいる。

今回紹介する著書はそうした著者の長年の実務経験の中から、労働・雇用の問題に焦点を当てて関連法制、税制、社会保障制度、外国人法の分野まで含めて包括的に解説しようとする野心的な一冊であり、ドイツにこれからマネージャーとして赴任する日系企業の社員のみならず、現地企業に就職しようとする方々、更にはドイツ労働問題に関心のある研究者にも役に立つ内容となっている。また最終章では日本からの駐在員、出張者の滞在許可・労働許可・ビザの問題を扱っており、本社人事担当者にも参考となる内容を含んでいる。本書はもちろん実務的な専門書ではあるが、著者の語り口同様、平易な文章で分かりやすく書かれており、多くの読者を獲得することが期待される。

「ドイツ進出企業の労働問題」
池田 良一著
出版：信山社
2021 年 11 月 30 日発行
ISBN: 978-4-7972-55676

ドイツの小学校の必需品
万 年 筆

クッケルト 瑞穂

ドイツの小学生の筆箱には必ず万年筆が入っているのを、みなさんはご存じでしょうか？ドイツの小学校では万年筆が必需品です。

私の娘は２年生の時にある程度筆記体を勉強した後、万年筆とは何か、使い方そして万年筆で筆記体を書く練習がはじまり、通常の文章書きも万年筆を使うことが多くなりました。万年筆にも子供用に沢山の種類があり、娘の学校では様々な子供用万年筆を実際に手に持って、どの万年筆が合うか確認したようです。私は今までほとんど万年筆を使ったことがなく万年筆は特別なペンで大人が使うイメージがあります。その為、娘がとても嬉しそうに万年筆で楽しく筆記体の文章を書いている姿を見て感心します。

万年筆で筆記体を書く練習

学期の最終日に長女が先生からもらった Füllerführerschein（万年筆免許証）

ドイツの万年筆に代わるものとしては、日本の小学校では筆を使う書道にあたるでしょうか。いつか娘にも日本の文化でもある書道を経験させてあげたいものです。

Besonderes deutsches Schulmaterial
Der Füller

Mizuho Kökert

Haben Sie schon gewusst, dass alle deutschen Grundschulkinder einen Füller in ihrem Federmäppchen haben? In der deutschen Grundschule müssen alle Kinder lernern, mit einem Füller zu schreiben.

Am Anfang der 2. Klasse hat unsere Tochter angefangen, die Schreibschrift zu lernen. Etwas später hat sie gelernt, was ein Füller ist und wie man ihn benutzt, Schreibschrift mit dem Füller geübt und dann normale Sätze mit dem Füller geschrieben. Es gibt viele verschiedene Füller für Kinder. In ihrer Schule haben die Kinder die verschiedenen Kinderfüller ausprobiert, um festzustellen welcher Füller zur Hand des Kindes passt.

Ich habe leider fast nie einen Füller zum Schreiben benutzt. Für mich ist ein Füller ein besonderer Stift und in meinen Gedanken sind die Leute, die mit einem Füller schreiben, nur Erwachsene. Darum bin ich sehr beeindruckt, dass unsere Tochter ihren Füller mit Freude zum Schreiben benutzt.

Vielleicht ist die Kalligraphie stattdessen der Füller der japanischen Grundschule? Hoffentlich hat sie auch die Gelegenheit mit Kalligraphie die japanische Schreibkultur kennenzulernen.

日独協会への寄付金報告（2023 年度第一次 8 月 31 日時点）　Bericht über Spenden an die JDG (1)

下記の方々よりご寄付いただきました。ご芳志、大変ありがたく、厚く御礼申し上げます。当協会の事業運営に善用させていただきます。（敬称略・順不同）

100,000 円
恵谷　英雄
宮地　剛

73,000 円
近藤　貴子

50,000 円
織田　正雄

30,000 円
花井　陽子

23,000 円
中谷　信嗣
石田　陽子

20,000 円
佐藤　浩通

13,500 円
出原　悠

13,000 円
金谷 誠一郎
川田　篤
北村　馨
庵　　美香

10,000 円
木田　宏海
森　宏之

7,000 円
石川　泰三
斎藤　淳司

5,500 円
林　龍代

5,000 円
柴田　明
亘理　康之
渡辺　久恭

4,000 円
村主　登

3,500 円
島崎　一彦

3,000 円
陣内 志穂里
明石　真和
藤本　悟
羽山　誠司
早瀬　勇
日南田 美幸
平松　龍文
堀口　靖之
堀田　博司
井上　壽博
磯田　昇
神谷　善弘
金子 三千子
木村　恭子
北村 侑三郎
古池　好
駒井　隆富
今田　誠司
小谷津 博一
黒川　剛
前野　正子
松田　奉博
松藤　尊文
三代　道義
宮内　大輔
茂木　孝一
中川　巌
中村　恭一
根木　大助
西浦　啓子
野田　浩資
岡田　裕
岡島　偉子
大久保　明
笹木　薫
佐藤　勝彦
鈴木　秀明
鈴木　庸夫
髙田　操
瀧沢　敬三
田辺　晃
田中　章子
丹治　誠
對馬　節子
若林　吉彦
山﨑 加津子
山﨑　悦宏
千澤　忠彦
岩越　則夫
則満　洋祐
清水 佳代子
高橋　忠夫
児玉　恵仁
新井　俊三
酒井 るみ子
内藤　隆雅
大町　明
上野　弥生
賀久　哲郎
田中　正昭
中路　正浩
染谷　孝幸
齋藤　勝義
吉田 香代子
鈴木 真喜子
辻　裕光
相川　美子
中越　健之
前古 みね子
山根　洋平
井上　雅之
柚岡　一明
清水 健一郎
沼澤　康之
田部井 欣司
坂口　尚史
歌田　浩子
角田　美幸
竹井　豊
田丸　忠男
橋谷　康一
曽根　智義
久保田　隆
余田　拓矢
米田　美紀
奥山　明彦
竹内　優

2,000 円
飯野　夏生
芹澤　洋
椎名　猛
須賀　恒夫
野澤　勉
増永　純

1,000 円
梁井　秀雄
槁本　行枝
飯島　里美
川西　太郎
西山　亜紀

ドイツ経済の動き 第83回

足並みそろわない3党連立政権

伊崎 捷治（当協会理事　元ベルリン日独協会副会長　当協会ドイツ時事問題研究会世話人）

➢➢➢ 高まる産業空洞化論

ドイツではこのところ産業空洞化を懸念する議論が盛んです。エネルギー価格の高騰や著しい人手不足などによって経営環境が悪化し、より条件の良い国外へ企業が逃避してしまうーその結果、ドイツ経済を支えてきた製造業が弱体化し、賃金や物価ばかりが上昇して、1990年代末のように「ヨーロッパの病人」と呼ばれるような状態に陥ってしまうのではないか、という議論です。

人手不足は好調な経済を背景にコロナ以前から顕在化していましたが、その後もさらに顕著になっています、労働市場・職業研究所（IAB）によると、2022年の未充足求人数は200万人に達しました。ドイツ商工会議所連盟の調査によると従業員数500人以上の企業の3分1が国内よりも海外での活動を強化するとしています。小規模企業や手工業の中には人手不足で廃業を余儀なくされる例が少なからず報道されています。

エネルギーについてはドイツでは昨年秋、ロシアからの天然ガスおよび原油の供給が停止し、暖房油などが高騰しました。ドイツ電力・水道事業連盟（VDEW）によると、2022年後半の産業用電力料金は1 KWhあたり53.38セントで、2021年の21.28セントの2倍以上に上昇しました。その影響はセメント、アルミ、化学など電力を多く利用する産業が大きく受けました。

そうした中で、注目されるようになったのが米国のバイデン政権が2022年秋に打ち出したインフレ抑制法（IRA）でした。米国内で気候保護や医療の向上に資する投資を税制や補助金によって手厚く優遇するというもので、これに呼応してドイツからも自動車、化学などの重要産業が生産拠点を次々と米国に移してしまうのではないかとの懸念が拡がりました。

こうした状況について産業界からは政府に対して企業減税やエネルギーコストの補填、さらには各種規制の緩和を求める声が高まりました。その背景には上半期の国内総生産（GDP）伸び率が予想に反してマイナスとなり、EU諸国の中で最下位のグループに入ってしまったという要因もあります。

➢➢➢ 尽きない課題

政府としてはエネルギー危機対策のための喧騒がようやく下火になり、任期後半になって改めて連立協定で目標とした合理的で効率的な経済社会の構築に向けて行動を迫られています。しかし、3党の連立ともなると基本的な考え方や方向性が異なり、対立することが多く、何事もスムーズに進まない状況です。

そうしたなかで、リントナー財政大臣（FDP）が7月半ばに国内経済の振興を目的とする「成長機会、投資、イノベーションの強化および税の簡素化と税負担の軽減に関する法案（成長機会法案）」を公表し、閣内の紆余曲折を経て、8月末の特別閣議でようやく決定しました。

主な内容は、気候保護のための投資に対する15%の奨励金、動産に対する定率の減価償却、住宅の繰り上げ償却、税制面からの研究開発の促進、損失の繰り越し控除制度の拡大などです。これによって企業の税負担は2024年から2028年までの5年間について毎年70億ユーロとされています。

投資とイノベーションによってドイツの国際競争力の強化に向けてようやく一歩を踏み出した形ですが、財源の多くを負担する州や市町村の抵抗も予想され、予断を許しません。

コロナ対策、エネルギー対策、社会保障の充実などでひっ迫するドイツの財政にはほかにも電力多消費型産業の救済、送電網の拡充、インフラ整備など数々の課題が待ち受けています。足元では連立3党を合わせた支持率がこのところ39%、36%と低下を続ける一方で、極右ポピュリスト政党AfDの支持率が政府の移民対策への不満を主因に22%とCDU/CSUの29%に次ぐ2位にのし上がっています（出所：ARD、DeutschlandTrend、2023.08.31）。任期後半に入る政権の課題は尽きないようです。

月刊音声教材（無料）

Direkt aus Europa auf deutsch

Nachrichten aus dem Radio, Interviews, Reportagen, ... + Text + Erläuterungen und jeden Monat eine Übungsaufgabe

Hörverständnisübungen (etwa 60') und Formulierungsübungen für die Mittelstufe mit etwa 60 S. Beiheft, bis Nr. 277 für 3 875 Yen, seit Nr. 278 gratis im Internet:

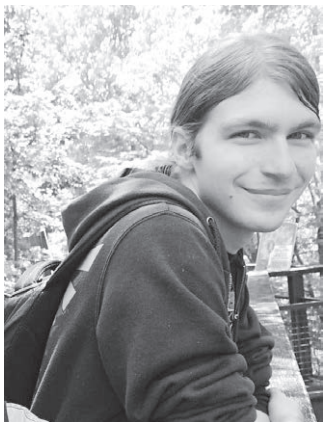
http://aufdeutsch.news.coocan.jp

監修：Heinz Steinberg 当会会員
元東京外国語大学客員教授

（日独協会会員のドイツ語相談も無償）

新研修生ダヴィット・マイヤー（David Meier）さんインタビュー

10 月から来年の 3 月まで、ダヴィット・マイヤーさんが研修生として協会の様々な活動をお手伝いしてくださいます。ダヴィットさんにインタビューしました。



出身地

Baden-Württemberg 州の Stuttgart の近くにある Hirschlanden という小さな町です。大学のある Tübingen 市に 1 年半、交換留学先の京都に 1 年住んだ以外は、6 歳からずっとこの町で暮らしています。

この辺の見どころと言えば、メルセデス・ベンツの博物館や、毎年行われる Frühlingsfest（春開催）、Canstatter Wasen（秋開催）という大きな、飲食のお祭りです。が、残念ながら自分は車にもお酒にもあまり興味がないんです…。

「日本学」専攻

高校生の時、アニメの「ポケモン」や「新世紀エヴァンゲリオン」にはまってしまいました。高校の卒業旅行として、友人と二人で東京に 2 週間滞在しましたが、その時はまだ日本語ができなくて、東京に着いてからホテルにたどりつくまで 2 時間も迷ってしまいました。秋葉原や博物館、江の島などを見ました。この旅行の後に、ひらがなやカタカナを独学で覚えはじめましたが、日本語を独りで学ぶのは難しいと思い、大学で「日本学」を専攻することにしました。

大学では最初の 1 か月で「ひらがな」「カタカナ」をマスターし、1 年生の時は毎日 2，3 時間、日本語の授業を受けました。また、毎週、単語と漢字と文法のテストが 2 回ずつあり大変でした。日本語の授業は最初の 2 年半は毎日ありました。日本語の知識を一通り学んだ後は、翻訳のゼミに出て、「徒然草」のような古典を訳したこともありました。今も、自分で毎日漢字の勉強をしていますし、日本人のゲーム中継の動画などを見ながら、学習しています。

大学では、日本人留学生とタンデム（語学交換）をしたり、レストランで一緒に地元の料理を食べたり、Maultaschen（餃子のように皮の中に肉餡を包んだ食べ物）を料理したりしました。

京都へ

大学に入ってから 1 年半後、京都の同志社大学に 1 年間留学しました。Tübingen 大学と同志社大学がパートナー協定を結んでいたので、京都で学ぶことができました。日本でも毎日、日本語の授業がありましたが、なんといっても楽しかったのはサークル活動！アニメサークルに入り、上映会をしたり、アニメに出てくるダンスの「振りコピ」（振付を真似して踊ること）の練習をしたりしました。付近の大学のアニメサークルとの交流会も多く、友達がたくさんできました。サークルに留学生は僕一人でしたが、メンバーにはとてもやさしくしてもらいました。

留学中、文化祭のステージで「振りコピ」したダンスを披露。左から 3 人目がダヴィットさん。

特技

小さなころから任天堂の「マリオ」や「ゼルダの伝説」といったRPG（ロールプレイングゲーム）が好きで、自分でもゲームを制作中です。そのゲームもキャラクターと話したり、モンスターを倒したりする冒険モノです。アプリを作るのも得意で、単語を覚えるアプリを開発して、日本語の単語を覚えるのに使いました。

よく使う言葉

日本語で、文章の最後に「かもしれない」と付けることが多い“かもしれない”です（笑）。日本語で話す時だけではなくて、ドイツ語で話す時も「Ich glaube（私は思う）」を使っていることが多い“かも”。断定的な表現はあまり使わないですね。

日独協会でやってみたいこと

僕は将来日本で働きたいと思っていますし、文化交流に興味があるので、学生時代にその経験ができる良い機会だと思って研修に申し込みました。日独協会では、例えば、ドイツのクリスマス文化を紹介するイベント、クリスマスクッキー作りなどをやってみたいです。

今回の滞在中に、たくさん東京を探検したり、「鉄道博物館」などの博物館に行ってみたいです。あと、まだ食べたことのない「納豆」に挑戦したいです！

会員へのメッセージ

ドイツ語を学んでいる人は、言語を学ぶには会話が一番良い方法ですよ！研修期間中、お会いすることがあればぜひ日本語でもドイツ語でも気軽に声をかけてください。

お知らせ Mitteilungen

日独 MANGA コンクール 2023 応募締切る！
Die Beiträge für den Japan-Deutschland-MANGA-Wettbewerb 2023 sind jetzt geschlossen!

「漫画を通して日独青少年の友好を深める」ことを目的に、2019 年から隔年でベルリン独日協会と共催している「日独 MANGA コンクール」も今年で 3 回目となりました。今年はテーマを「Guten Appetit! ―いただきます！―」とし、日独の食に関しての作品を募集しました。応募締切まで、事務局は「果たして今年は作品が来るだろうか？」とドキドキしていましたが、7 月から作品が届き始め、最終的には、郵送とデジタル送付あわせて 14 作品が集まりました。力作ぞろいです。これから審査を経て、入賞者の表彰や入賞作品の展示会を開催予定です。誌面でも作品を紹介する予定です。どうぞお楽しみに！

送られてきた作品

Die Brücke への寄稿のお願い
Aufruf zu Beiträgen für die Brücke

日独関連の活動の紹介やエピソード、紹介したいドイツ語圏カルチャー（本、音楽、映画、趣味）、日本の中のドイツ（おすすめのお店、レストラン、場所等）、ドイツに関する体験談やドイツ語学習法などについて、ご寄稿をお待ちしています。また、シリーズ「私とドイツ」の記事や表紙の写真も募集しています。執筆をご希望の方は、事前に編集部までご連絡ください。

広告掲載・チラシ封入のご案内
Über die Anzeigen und Flugblattbeilagen

Die Brücke 本誌への広告掲載料は下記のとおり。
1 ページ　80,000 円 / 1/2 ページ　40,000 円 /
1/4 ページ　20,000 円

2023 年度「クリスマスの集い」

今年の「クリスマスの集い」を、12 月 1 日㈮ 19 時～ 21 時に開催いたします。会場は、「日立目白クラブ」（東京都新宿区下落合 2-13-28　Tel. 03-3951-6304）に決まりました。「日立目白クラブ」は、1928 年に作られた歴史ある建物で、現在は日立グループの福利厚生施設として使われています。東京都選定歴史的建造物にも選定されているこの由緒ある建物を、日立製作所さまのご厚意で、使わせていただけることになりました。

日立目白クラブ外観

集いには、フォン・ゲッツェ大使ご夫妻、東原会長ご夫妻にもご参加いただける予定となっています。皆様には、立食ビュッフェや福引をお楽しみいただき、心温まるひと時をお過ごしいただきたいと考えています。開催時間、会費、申込方法等の詳細は 11 月号の Der Brückenpfeiler や協会ウェブサイトにてご案内予定です。

チラシ封入料：法人会員 20,000 円
個人会員 25,000 円 / 一般 30,000 円
広告掲載をご希望の場合は、編集部にご連絡ください。

その他
Sonstiges
東京横浜独逸学園オクトーバーフェスト
Oktoberfest der Deutschen Schule Tokyo Yokohama

ドイツ及び各国の料理や手作りケーキ、生徒による催物をお楽しみいただけます。詳細は下記ウェブサイトでご確認ください。
日時：2023 年 10 月 7 日㈯　12:00 ～ 18:00
会場：東京横浜独逸学園
（神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-4-1）
詳細：https://www.dsty.ac.jp/ja

編集後記

■「日独漫画コンクール 2023」の作品が予想以上に多く集まりました。今回が 3 回目の開催で、正直ほっとしております。来年は東京都・ベルリン市姉妹都市提携 30 周年を迎えます。只今、具体的な記念行事をドイツ大使館と協議しています。第一回目の「日独漫画コンクール 2019」は東京都・ベルリン姉妹都市 25 周年を記念して開催、その後 2 年ごとに実施しています。開催ノウハウもなくて手探りの状態で開催してきました。次回開催は本来なら 2 年後の 2025 年の予定ですが、姉妹都市提携 30 周年にあわせ、来年の開催を検討しています。また、来年 10 月にはベルリンで日独合同の「日独パートナーシップ会議 2024」を開催します。多くの日独関係者が集合します。日独協会・独日協会の枠を超えて、日独交流の発展に向けて討議いたします。多くの日独関係者の皆様の参加を期待しています。（柚）

■表紙で取り上げられたシーボルトが約 6 年の日本生活中大半の時間を過ごした長崎では今年、出島、歴史文化博物館（長崎奉行所を再現）、シーボルト記念館（鳴滝の塾の跡地に彼のドイツの旧宅を模して建てられた）などで、様々な記念行事が催されています。「タコとエビとシーボルト」なんていうのもありました（9 月末で終了）。くんち（10 月 7 ～ 9 日）の賑わいが静まり、お魚もチャンポンも美味しく感じられるこれからの季節に、会員の皆様もぜひ長崎を訪ねて、鎖国時代に日本で唯一外国に開かれていた地からヨーロッパに思いを馳せられてはいかがでしょうか？年内が無理な方には、2 月に開催されるランタンフェスティバルも実に魅力的ですよ！（松）

次は、Die Brücke 12 月号（12 月 1 日発行予定）のお届けとなります。

Die Brücke 架け橋
日独協会機関紙「Die Brücke 架け橋」第 732 号　2023 年 10 月 1 日発行／隔月刊
編集責任：柚岡一明（編集長）公益財団法人日独協会
jdg@jdg.or.jp ／電話：03-5368-2326 ／ FAX：03-5368-2065 ／ http://www.jdg.or.jp
住　所：〒160-0016 東京都新宿区信濃町 18-39（マヤ信濃町 2 番館）／印刷・製本：三和印刷株式会社
禁 無断転載

「Die Brücke 架け橋」第七三二号令和5年10月1日発行（隔月刊）公益財団法人 日独協会 定価一部三百円